

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 キタカワ	代表者	北川 博康	法人・事業所の特徴	『生活の継続性の尊重』、『残存能力の活用』、『自己決定の尊重』の三つの理念を共有し、利用者本位の視点を大切にしたいきめ細やかな支援に努めている。同一建屋内に併設する居宅介護支援事業所やデイサービスセンターとは、合同で納涼祭や敬老会、運動会、餅つき等を開催し、地域の方々との交流を深める場にもなっている。又、隣接する特別養護老人ホームとは行事だけではなく、避難訓練や災害時の避難場所としても協力体制を整えている。 食事面では、栄養士による栄養管理の行き届いたバランスの良い食事を3食共に提供出来るだけではなく、毎月一回のグルメランチでは、ご当地の有名な食べ物が再現され好評を得ている。
事業所名	小規模多機能ホーム あゆ美	管理者	竹中 未喜江		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の内容や改善計画を日々の業務にどのように活かすか職員それぞれが検討する。検討結果を話し合い、新たな気付きを導き出す。	時々職員間で確認し合ったり、朝夕の申し送りで改善計画を話し合ったりした。	・年々必要な書類や記録が増えてきている。それに追われて肝心の利用者との関わりが少なくなっているのではないかと心配してしまう。	職員それぞれが自己評価を意識し、達成できなかった項目への取り組みを行う。

B. 事業所の しつらえ・環境	季節感を演出する天井や壁面の飾りつけは今後も継続する。また感染予防対策は居心地の悪さを感じないよう工夫しながら継続していきたい。	秋祭りなど地域の行事も復活し、活気ある年度になった。外出行事にも積極的に取り組んだが、久しぶりのことで時間配分を読み違える等反省点はあった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出行事に参加できない利用者への配慮や対応も充分であったか。</li> <li>・施設は清潔でいつも居心地のいい空間だと感じている。</li> </ul>	清潔で安心できる空間という評価が損なわれないよう引き続き環境作りに取り組む。
C. 事業所と地域のか かわり	できる限り地域行事には参加したい（利用者の大きな望みでもある）。	短時間のボランティア訪問、近隣保育園からの園児の慰問、秋祭りへの参加など、地域との関わりは徐々に復活してきている。また、毎月の『あゆ美だより』を通し、施設からは積極的な発信を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前のように地域を挙げての夏祭りの開催はまだ少し先になりそうだが、地域との関わりは今のままで充分だと思う。</li> <li>・あゆ美だよりは毎月楽しみにしている。行事内容や職員の熱意がよく伝わってくる。</li> </ul>	地域行事への参加と『あゆ美だより』のポスティングは続けていきたい。
D. 地域に出向いて本 人の暮らしを支え る取組み	感染症対策を怠ることなく外出行事を定期的に開催する。	今年度は専門学校の実習生にも活躍していただき、地域の敬老会やあじさい祭り、俳句コンテストへの参加等を行った。遠足や散歩も日常的に行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントへの参加は内容も楽しいが、地域住民との交流も有意義な時間となりそう。これからも積極的に行ってほしい。</li> </ul>	SNSを活用するなど情報収集を充分に行い、積極的に地域へ出向いていきたい。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	時間短縮で会議の回数を増やしたり、事業所以外の場所（公民館など）で開催したりと会議の在り方を見直し、より地域との関わりが強くなれるよう模索していきたい。	今年度は通常開催の予定であったが、感染症の流行時期には少人数での開催とした。事業所以外の場所での開催は付加価値を付けての開催としたいため次年度への持ち越しとしたい（給食試食会等企画はあった）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告を毎回楽しみに聞いている。この施設にならお世話になりたいと毎回思わせてくれる。</li> <li>・少人数での開催でもよい。書面で確認させていただいているので問題ない。</li> </ul>	運営推進会議がより良い情報交換の場となるよう具体的に付加価値を持たせていきたい（試食会の開催やBCPに関する相談など）。
F. 事業所の 防災・災害対策	様々な想定避難訓練を行うとともに、BCPの策定が次年度の課題であると考えている。	今年度からは火災、水害等の避難訓練に加え、BCP策定に伴う訓練や研修も計画的に行わなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BCPは大掛かりなので地域の状況に合わせて見直し、みんなで手探りで毎年改善していきましょう。</li> </ul>	職員に対しBCPの周知を徹底する。まずはハザードマップや備蓄品の確認が日常業務になるよう意識付ける。